

## かずさんの人生に感謝、そして、奥様に大大大～～～感謝

原田正平

聖徳大学児童学部児童学科教授・児童学研究所長（小児科医）

お話を聞き始めて、まず気になったのは、肩を上げ下げしてお話をされていることでした。

もしかして呼吸が辛いのかなあ、頸随損傷と伺っていましたので、呼吸する力も弱くなっているのではないかなあ、90分もお話しされて大丈夫かなあ、と心配になりました。

ご自身のことを話される中で、「傍の方が心配なさるほど辛くはありません」と、私たちの心配を察知して伝えてくださったので、その後は少し安心して最後までお話を聞くことができました。なにより聞いている私たちの気持ちに配慮してくださったことが、最初の感謝でした。

お話を伺う前は、大きな障害を受けた方が、ITの普及により普通の人のできないことを、むしろ活発に行っている「でんぐりがえし」のお話を聞けるんだなあ、単純に考えていました。

しかし、お話しされている姿を拝見し、お話の内容より、はるばる岐阜から来られ、ゼミでお話しされ、さらには、乃木坂スクール、そして「放課後」でも話していただける、そのエネルギーにまず圧倒、というか、感謝の気持ちでいっぱいになってしまいました。

乃木坂スクールでいろいろな方から話を伺い、いつも学ばせていただくわけですが、いつもはその方の達成されてきたこと、なされてきた事のすごさに感銘を受け、感動してきました。でも、お話をしてくださる方の人生に思いを致すことは、実はあまりなかったことに気づかされました。

昨晚（10月5日）は違いました。かずさんが達成されてきたこと、なにより、かずさんの人生そのもの、生き方そのものが、私の心に深く刺さってきました。

そして、これまで沢山の感銘深い生き方を伺ってきたのに、お話ししてくださる方の人生の重みに、本当には考えが至っていなかったことに気がつかされ、愕然としてしまいました。

なんて勘違いをしていたのだろう。こんなにもすばらしい方たちが、私たちのために時間を割いて自分の人生を語って下さっていたのに、まるで、〇△講座で気楽に話を聞いているのと同じような気持ちでいたなんて。深く反省もしました。

そんな気持ちにさせて下さったことも感謝でした。

昨晚のお話は何が違ったのか。

それはこれまでの何方よりも大変な人生を歩みつつ、そして今、癌の発症という一大事に直面しながら、最後まで笑顔を絶やさずに話しきって下さったかずさん自身に、深く深く感動したからでした。

聴講生の皆さん全てが同じ思いだったことでしょう。

昨晚の拍手はいつにもまして、長く長く続いていました。これがアメリカなどだったら、スタンディングオベーションだったに違いありません。

事故の後、かずさんが、勘違いから自身の病状をけして深刻に思わなかったこと。畠山卓朗先生と出会われたこと。梶原拓前岐阜県知事の支援があったこと。野田聖子さんの地元が岐阜県だったこと（ちなみに現在の職場の名誉学長が野田さんです）。

すべてがつながり、昨晚の出会いになったことに感謝して、そしてなによりも、そんなかずさんにずっと寄り添ってこられた奥様に大大大～～～感謝して、終わりとします。